

事業所管理者・健診担当者 様

**バリウムによる胃がん検診の必要性・重要性と安全基準について**

平素より、弊社の健診をご利用いただき感謝申し上げます。

この度、弊社の実施する『バリウムによる胃がん検診』を安全に受診頂くため、その危険性（偶発症）を考慮し、受診対象基準を変更、追加することとしました。以下に記載の事項を健診受診予定の職員様へ周知いただき、ご理解の上受診をお願い致します。

**1 バリウムによる胃がん検診の必要性・重要性等**

バリウムによる胃がん検診を受けることで、早期発見につながり、早期治療・医療費の軽減につながります。この検診は、胃がんによる死亡率を減少させる検診として国が推奨しています。胃がん検診で「要精密検査」となった場合は胃がんの疑いがありますので、必ず精密検査を受診してください。精密検査は胃内視鏡検査です。また、「異常なし」となった場合でも、胃の痛み・不快感、胸やけ、吐き気、食欲不振などの症状がある場合は、医療機関を受診してください。

**2 バリウムによる胃がん検診の危険性（偶発症）**

この検査は、発泡剤（胃を膨らませるためゲップを最後まで我慢してください）とバリウムを飲み、胃の粘膜にバリウムを付着させるため撮影台の上で数回回転してもらい、さらに途中で頭をかなり下にした（逆さまの）体勢で撮影を行います。その際、飲んだバリウムに起因する重篤なアレルギー症状の発出、水分摂取が不十分でバリウムが腸内で固まることによる腸閉塞・穿孔、また高血圧などの基礎疾患により心筋梗塞・脳卒中などを誘発する危険性があります。  
 ≪参考≫日本消化器がん検診学会関東甲信越支部「胃X線検診安全基準—第2版—」より

**3 以下に該当の方はバリウムによる胃がん検診を受けることが出来ません**

⇒ 内視鏡による検査を検討ください

- I. 妊娠中または妊娠の可能性のある方
- II. 過去にバリウム検査で発疹等のアレルギー症状が出た方
- III. 便が3日前から出ていない、又は以前バリウム便が出ず医療機関を受診した方
- IV. 過去にバリウムを飲んで強度の便秘になったことがある  
 （検査3日後までにバリウムが排出されなかった）
- V. 腸捻転と診断されたことがある、  
 過去5年以内、または過去10年以内に2回以上腸閉塞になった方
- VI. 腹痛があり、大腸憩室炎が疑われる方（憩室があっても現在無症状であれば検査可）
- VII. 心臓病や腎臓病で水分摂取制限のある方（バリウム排出障害の可能性があるため）

『胃がん検診受診票』  
 に記載

（裏面へ）

4 次に該当の方も安全上の理由から、胃がん検診を原則受けることが出来ません  
⇒ 安全を考慮し医療機関での受診を検討ください

- 当日の血圧が高い方（180/110mmHg以上）…日本高血圧学会によるⅢ度高血圧相当、心筋梗塞、脳卒中等の合併症をきたす恐れ
- 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病など）で治療中あるいは経過観察中の方…腸に穴があいたり、症状の悪化を招く恐れ（無治療で現在寛解であれば可）
- 過去にバリウムを飲まれて誤嚥（ごえん；気管にバリウムが入ること）したことがある方…肺炎をきたす恐れ
- 脳梗塞などで麻痺や運動障害、嚥下障害（飲み込みが悪い）がある方…回転ができなかったり、バリウムが飲めないことにより適正な検査画像が得られない
- 体重が130kg以上の方…撮影台の作動制限体重を超えるため検査途中での作動停止や故障をきたす恐れ
- 自力で立てない方や撮影台の手すりを掴むことが困難な方…回転動作中に落下したり、適正な画像が得られず判定ができない可能性がある
- 慢性呼吸器疾患で酸素吸入をしている方…回転動作が困難、呼吸困難を招く恐れ

公益財団法人島根県環境保健公社